2025年度 三鷹市中国残留邦人等地域生活支援事業

移民・難民の受入、その背後にかくされた排除

～入管の病理をときあかす～

開催日時 2026年 **3月8日(日)** 12:30~16:30（開場 12:00）

開催場所 三鷹駅前コミュニティ・センター地下１階大会議室

講　師 山村淳平さん（港町診療所）

参加費 無料　**定　員** 60名（申込不要）

※山村先生のご講演の後、当会の石井小夜子理事・弁護士との対談があります。

中国残留邦人問題とは

戦前、国策で「満洲」に送られ、敗戦後に棄てられ続けた中国残留邦人は、日本国家からの被害者であると同時に、中国侵略の加害者でもありました。その子や孫は、そうした歴史を受け継ぐ人たちです。

講師からのメッセージ

21世紀になり、移民・難民の移動はかつてない規模となっています。世界的な人のうごきにともない、各国は移民・難民を受けいれるいっぽう、収容・送還問題がおきています。ときに外国人排斥もみられます。背景にあるのは民族問題であり、世界的課題といってもよいでしょう。

現代社会のながれを正確につかむには、現場でおきている事象をみつめつつ、過去とどのようにつながっているのか、ほかの国々ではどうなっているのかをさぐらなければなりません。

今回、移民・難民をあつかう日本の出入国在留管理庁（入管）をとりあげ、現場原理主義の手法によって分析をこころみました。すると、日本の歴史問題、植民地支配および民族差別、あかるくない将来がみえてきたのです。21世紀の課題にたいする治療と予防を、わたしたちはみいだせるのでしょうか？

一方で、中国籍の中国帰国者家族は他の外国籍者と法的に同じ立場にあり、現在も退去強制の問題が残されています。2024年の入管法改正により、税金や国民保険料の滞納等で永住権を取り消すことが決定してしまいました。失業や病気で公租公課を滞納することは誰にでもありうることです。こんな不安定な状況が残留邦人たちに迫っています。山村先生のご講演をお聞きして、この状況を皆で考えていただきたいと思います。

山村淳平さんの経歴

1980年に大学卒業後に内科医として市中病院に勤務した。1990年代にアジアやアフリカにて被災民や難民への医療支援をおこなった。2001年から現在まで横浜市の診療所につとめている。そのかたわら、日本の移民・難民コミュニティおよび支援団体の事務所にて、無料の医療相談を実施している。また、毎月１回外国人収容所での面会活動を続けている。

著作に『壁の涙～法務省外国人収容所の実態』（現代企画室2007年）、『難民への旅』（現代企画室2010年）、『難民からまなぶ世界と日本』（解放出版2015年）、『移民がやってきた』（現代人文社2019年）、『入管解体新書』（現代人文社2023年）、DVD映像『外国人収容所の闇～クルドの人びとの今』（PARC2020年）がある。

■三鷹駅前コミュニティ・センター

三鷹市下連雀３-13-10

「三鷹駅」南口から徒歩５分

主催：三鷹市・NPO法人中国帰国者の会

〈帰国者の会・連絡先〉TEL：070-5588-7827　メールアドレス：npo.kikokusha@gmail.com

ホームページ：http://www.kikokusha.com

2025年度 三鹰市中国残留孤儿等地域生活援助事业

接纳移民和难民，背后隐藏的排斥

～解读入管体制的病理～

日　程 2026年3月8日（周日）12:30至16:30（会场开放时间：12点开始）

场　所 三鹰市车站前社区中心会议室

演讲者 山村淳平先生（港町诊疗所任职）

参加费用 免费　　**定　员** 60人（无需申请）

＊山村先生演讲结束后，安排有与本会石井小夜子理事兼律师的会谈栏目

什么是中国残留邦人问题

中国残留邦人是指战前，在国家政策推动下被输送到“满洲”，并在战败后长期被遗弃的日本遗孤。他们既是日本国家政策的受害者，同时也是侵略中国的加害者。他们的子女与孙辈，也承继了这段复杂而沉重的历史。

演讲者留言

21世纪以来，移民和难民流动的规模达到了前所未有的程度。伴随着全球范围的人口迁移，各国在接纳移民和难民的同时，也不断地出现收容和遣返等问题。甚至时有排斥外国人的现象发生。其背景涉及到民族问题，堪称全球性课题。

要想准确把握当代社会的发展脉络，就必须在凝视现实中发生的现象，同时探究问题的历史背景以及其他国家的状况。

本次活动将聚焦于日本负责移民和难民事务的出入国在留管理厅（简称：入管），尝试通过“现场原理主义”的方法开展分析。面对结果所显现出的日本历史问题、殖民统治与民族歧视，不甚光明的未来图景，以及21世纪的课题，我们是否能够找到治疗与预防的路径呢?

另一方面，中国籍的中国归国者家庭在法律地位上处于与其他外国籍人士相同的处境，目前仍然存在被强制遣返的问题。随着2024年修订《入管法》的实施，对拖欠税金或国民保险费等者可取消永久居留资格已成为既定事实。对任何人来说失业或疾病都可能导致无法缴纳公共费用，而这种不稳定的状况正向残留孤儿群体逼近。希望大家通过聆听山村老师的讲座，共同思考这一现实问题。

山村淳平先生简历

1980年大学毕业后成为内科医生任职于综合医院。20世纪90年代，在亚洲、非洲等地从事灾民和难民的医疗援助。2001年开始转职于横滨市的诊疗所至今。同时，他长期在日本移民和难民社区及援助团体事务所从事免费医疗咨询活动，并坚持每月一次在外国人收容所开展会面援助活动。

主要作品有

- 《墙之泪——法务省外国人收容所的实态》（现代企画室，2007）
- 《通往难民的旅程》（现代企画室，2010）
- 《通过难民问题了解世界与日本》（解放出版社，2015）
- 《移民的到来》（现代人文社，2019）
- 《入管解体新书》（现代人文社，2023）
- DVD影像《外国人收容所的黑暗——库尔德人的现状》（PARC，2020）

■会场信息

三鹰市车站前社区中心会议室

地址：东京都三鹰市下连雀３-13-10

从JR「三鹰站」南口步行５分钟

主办：三鹰市・NPO法人中国归国者之会

〈归国者之会 联络处〉TEL：070-5588-7827　邮箱：nop.kikokusha@gmail.com

官网：http://www.kikokusha.com